

編集後記：略語を憶えられません。シンポジウム欄を担当していますが、専門外の記事では略語が出るたびに読み止まってしまいます。しかも最近、GABLSやGRUANなど、入れ子の略語が出てきました。これはもうG=Globalなどという私の貧相なインスピレーションなど通用するレベルではありません。右手の人差し指を略語一覧の頁に挟んで読み進みます。あれ？これはさっき出てきた略語。なんだったつけ。不惑の歳となり記憶力がめっきり落ちたようです。

いや、記憶力の低下ではなく、近年、略語そのものが増えているからに違いない。そう思って（願って）調べてみました。「天気」のホームページで過去のシンポジウム記事を検索。2.5（2007年）、1.9（2008年）、3.6（2009年）、3.4（2010年）、4.2（2011年）。それぞれのシンポジウム記事1ページ当たりの略語数の年平均です。過去10年間の平均は3.0でした。やはり今年は略語の割合が多い年ようです。人工衛星関係の記事、同化やアンサンブルなど最新の数値モデル技術に関する記事、国際的なプロジェクトやそれらを構成する組織に関する記事に略語が多いという傾向がみられます。

90年代半ばまでは略語一覧は存在せず、本文中での明示が主体となっています（記事によっては周知のもの

のとして説明なしに略語が使われているものもありました）。その後、徐々に略語を一覧としてまとめるようになっていくようです。この一覧表記が略語をより使いやすくしているのかもしれませんが。

いずれにしても、今後、略語は増えることはあっても減ることはなさそうです。そもそも略語を全て憶えようとするのに無理があるのでしょう。まずは「天気」の記事をフォローして、インスピレーションのレベルを上げることを目指したいと思う次第です。

さて、今月号（8月号）にはGCOSが推進するGRUANの解説と、そのICM-2のシンポジウム記事が掲載されています（あえての略語使用、ご容赦下さい）。後者は先の傾向どおり、プロジェクト名と組織名の略語が比較的多い記事です。でも心配ご無用。先んじて拝読させていただきましたが、キーワードとなる略語には、本文初出時に和名表記も記されていて、ストレスなく読めるように配慮されておりました。略語一覧も末尾に準備されており、再確認するのも簡単です。是非ご一読下さい。

なお、本稿中の略語については6月号、8月号のシンポジウム記事をご参照願います。

（青柳曉典）